

ヴァイオリニスト

小栗まち絵さんに最優秀賞を贈呈

大阪府内で開催された全公演の中から、とくに優れた成果をあげた人や団体を顕彰する大阪文化祭賞(主催：大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会)。53回目を迎えた今年度は、「伝統芸能・邦舞・邦楽」「現代演劇・大衆芸能」「洋舞・洋楽」の各部門の中から、独創性に富み、企画・内容・技法が総合的に優れている65公演が最終審査され、最優秀賞ほか各賞が決定した。審査には、関西の著名な芸術家や文化人、ジャーナリストがあたった。

各分野を通じてもっとも優れた成果をあげた公演に贈られる最優秀賞は、相愛大学教授でヴァイオリニストの小栗まち絵さんに決定。昨年7月にいずみホール(大阪府中央区)で開催した「いずみシンフォニエッタ大阪・第37回定期演奏会」での演奏が、「豊かな音色、歌心に満ちたフレーズ。精神性や感情を音楽として伝える強烈な集中力で、時代を問わない音楽の普遍的な美しさと緊張感、親密性を会場に呼び覚まし、現代とルネサンス期をつなげて深い感動をもたらした」と高く評価され、相愛大学に30年以上勤め、大阪での音楽教育に長年尽くした功績も讃えられた。

今年2月21日の贈呈式(リーガロイヤルNCB：大阪府北区)で、新井純大阪府副知事から表彰を受けた小栗さんは、「私の独奏で日本初演をしたジャックボディー作曲の『ミケラン



小栗まち絵さん
(贈呈式にて)

ジェロによる瞑想曲』は、私自身大変心を動かされた作品で、試行錯誤して演奏した結果が評価されて光栄に思う。音楽教育に務めてきたことも評価してくださり、とても嬉しい」と喜びを語った。

関西・大阪21世紀協会は、大阪文化祭賞を芸術・文化分野における人材の発掘や育成、交流事業の一環として重視し、受賞者の記念公演を主催するなどアピールに努めている。また、受賞者の一層の励みとなるよう、副賞賞金や記念盾も提供している。協会の堀井良殿理事長は贈呈式で、「昭和38(1963)年に創設された大阪文化祭賞は、半世紀以上にわたる歴史がある。優れた文化人、芸能人を輩出してきた大阪で、今日、皆さんによってその歴史に新たな1ページが加えられた。今後ますますのご活躍を祈念する」と、受賞者を讃えた。

平成28(2016)年度各賞受賞者と受賞公演

■最優秀賞(副賞50万円)

・小栗まち絵(ヴァイオリン)

いずみシンフォニエッタ大阪 第37回定期演奏会における演奏

■優秀賞(副賞15万円)

いもせやまおんなていきん

・「妹背山婦女庭訓」出演者一同(人形浄瑠璃文楽座)

四月文楽公演 通し狂言「妹背山婦女庭訓」の舞台成果

・MONO(劇団)

まがたま

「裸に勾玉」の舞台成果

■奨励賞(副賞5万円)

・片岡松十郎・片岡千壽・片岡千次郎

第二回あべの歌舞伎「晴の会」における片岡松十郎・片岡千壽・片岡千次郎の成果

・大阪女優の会

「あたしの話と、裸足のあたし」の舞台成果

・地主薫バレエ団 奥村唯

「人魚姫」の演技

・関西歌劇団

関西歌劇団第98回定期公演「皇帝ティートの慈悲」の成果

(敬称略)



受賞記念公演での小栗まち絵さん

大阪生まれ。1971年桐朋学園大学卒業。インディアナ大学アーティストディプロマ課程修了。1974～86年インターナショナル弦楽四重奏団のメンバーとして欧米を中心に活動。インディアナ大学助教授などを経て1986年帰国。2004年度エクソンモービル音楽賞、2009年度大阪市市民表彰(文化功労部門)など受賞多数。現在、いずみシンフォニエッタ大阪コンサート・ミストレス、相愛大学教授、東京音楽大学特任教授。



受賞者(前列)と主催者および各部門の審査委員長(後列)